

せん じゆ りん ば 千住の琳派

— 村越其栄・向栄親子 —

俵屋宗達から続く琳派の画風を、千住でも受け継いだ絵師たちがいました。江戸琳派の絵師、鈴木其一に絵を学んだ村越其栄(1808～1867)は、現在の千住河原町で寺子屋を開きながら千住の旦那衆の依頼を受けて絵筆を執っていました。父から寺子屋と画風を受け継いだ息子の向栄(1840～1914)もまた、千住の旦那衆に親しまれ、向栄と旦那衆による光栄会や与楽会を設立するなど、琳派芸術の一大文化集団を形成していました。



▲村越其栄《夏秋草園屏風》江戸時代後期(千住河原町稲荷神社蔵)



▲中野其豊《四季農耕図屏風》明治時代



明治末年の村越其栄学校様子

其栄は、天保11年に現在の千住河原町寺子屋「東 耕堂」を創立しました。これ慶応3年に向栄が継ぎ、明治 6年に村越小学校となりました。明治43年に大洪水被害より閉校するまで、70年に渡り地域の教育を担いました。

琳派ってなに？

江戸時代初期、京都の本阿弥光悦と俵屋宗達が華やかでデザイン的な様式を創始しました。これに影響を受けた尾形光琳がその画風を独自に継承、発展させ、さらに光琳に私淑した酒井抱一がそれを江戸で広めました。「たらしこみ」などの技法の他、金や銀を多様する装飾的・工芸表現が特徴的です。